

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 生活第6号

- 幼稚園，小学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成16年5月発行

### 「自然や物を使った遊び」における表現活動の工夫

平成15年10月に出された中央教育審議会「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」(答申)には、これからの子どもたちに求められる「確かな学力」の一つとして、表現力が示されている。また、生活科の学年目標(3)には、「身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉，絵，動作，劇化などにより表現できるようにする。」と示されており、「確かな学力」の育成には，表現活動の一層の充実が求められている。

そこで，本稿では具体的な活動を通して試行錯誤したり，繰り返したりしながら思考し，体全体で学ぶなどといった低学年の子どもの発達上の特質を踏まえ，内容(6)「自然や物を使った遊び」において，遊びを充実させ，楽しさや満足感・成就感を実感し，その思いが実現できるような表現活動の工夫について述べる。

#### 1 「自然や物を使った遊び」で育つもの

子どもが好んで取り組む遊びには，自然を利用したり自然物を使ったりする遊び，不要になった物等を使った遊び，伝承的な遊びなど様々な遊びがある。これらの遊び

には，自然や物と一体になって遊ぶ楽しさ，体全体で遊びに浸る心地よさ，工夫して遊びをつくり出す楽しさなどがある。

身近な自然とかかわり合う中で，子どもは創造的な発想や工夫を生かし，遊びや生活を豊かなものにしていくとともに，自分のよさや可能性に気付き，学習や生活への意欲と自信をもつことができるようになる。

また，子どもは遊ぶ中で対象への働き掛け方や友達との協力の仕方などを学び，友達と一緒に遊ぶための遊び方を工夫したり，約束やルールをつくったりしていく。こうした約束やルールづくりを通して，友達とよりよいかかわりがもてるようになり，友達との人間関係を深めたり，広げたりしていく力をはぐくんでいくのである。

#### 2 「自然や物を使った遊び」の具体化の視点

##### (1) 子ども一人一人の実態把握

子どものよさを生かし，その子なりの表現ができるようになるためには，教師が子ども一人一人の興味・関心，行動傾向，生活体験，課題解決の仕方，他者とのかかわり，自分自身のとらえ方，そして，その子なりの表現傾向などの実態などを把握しておく必要がある。このこと

は、価値ある学習活動を構成し、表現活動を充実させる上で、欠かせない視点である。

(2) 活動を広げる地域環境の活用

地域の文化的環境や自然環境を把握し、その地域の特徴を生かして遊びをつくり出すとともに、安全にかつダイナミックに活動できるよう学習環境を工夫する。

(3) 活動や体験に必要な技能，能力の育成

子どもは、体全体の諸感覚を使って感じ取ったり、道具などを使って作ったりできるようになると、一層自発的・能動的に対象にかかわろうとするようになる。そこで、子どもが対象と直接かかわり合う中で、健康や安全にかかわること、きまりを守ること、言葉遣いやマナー、手や体を使うこと、様々な道具の使い方など、その機会をとらえて適切な指導を行い、直接かかわる活動や体験に必要な技能，能力を身に付けさせることが大切である。

(4) 楽しさが実感できるような活動の工夫

友達と時間や場を共有できる楽しさ、できなかったことができるようになる楽しさ、分からなかったことが分かる楽しさ、いろいろと考えをめぐらす楽しさ、新しいことを発見する楽しさなど、子どもはこれらの楽しさを体験活動を通して実感し、その楽しさを誰かに伝えたいくなる。そこで、身の回りの自然を利用したり、身近にある物を作ったりして遊びながら、遊ぶことと作ることを一体的に取り上げる等、遊ぶ楽しさが実感できるように工夫していく。

(5) 他教科等との関連を図った表現力の育成

自分の思いや考えを伝えるためには、表現力そのものの育成が重要になってくる。国語や音楽，図画工作などの内容との関連を図り、合科的な指導を進める工夫が求められる。

3 「自然や物を使った遊び」を通した表現活動

(1) 対象そのものとの触れ合い

子どもは、学校や校区内を探検・散歩するときに見付けたクモの巣を、「クモの巣ってきれいだな」と見つめたり、つかまえたトンボが手の中で動く感触を楽しんだり、クスノキの葉を触って匂いをかいだり、野原に寝転がったり、落ち葉にもぐったりするなど、それぞれ身の回りの自然と触れ合って感動に浸る。さらに、自分がしたことや考えたことなどを文章にしたり、クレヨンで絵を描いたり、クモの巣やトンボの出る歌を歌ったり、踊ったり、出会った対象そのものになりきって体で表現したりすることにより、感動や気付きが更に深まっていく。

(2) 対象そのものの活用

アケビやフジ、クズなどのつるでかごや動物を編んだり、様々な色の木の葉で形を作ったり、草の土手で段ボールのそり遊びをしたり、花や葉でアクセサリーや人形を作ったり、不要になった空き箱や紙パックで動くおもちゃを作ったりするなど、作ること自体が表現活動につながっている。

(3) 作ったものの遊び

単元において、活動の振り返りの場で

友達や地域の人などに発表したり，一緒に活動したりする。ここでは，落ち葉のアート作品を展示したり，自分の作った詩や音楽を発表したりする。また，作ったおもちゃと一緒にゲームをしたり，遊んだりする中に，子どもがおもちゃを作り変えていく活動も取り入れるとよい。

生活科においては，子どもの生活圏が学習の対象や場になる。教師は，地域の社会や自然環境を十分に把握し，それらを生かして価値ある学習活動を構成する必要がある。学習対象と出会った子どもの素直なつぶやきや振る舞いを大切にして，自由な発想に基づく表現活動に結び付けていかななくてはならない。

#### 4 表現活動を工夫した「自然や物を使った遊び」の単元の学習活動計画例

ここでは，表現活動を工夫した単元「秋を楽しむ」の学習活動計画を示す。

単元「秋を楽しむ」の学習活動計画（全15時間）（第2学年 10月～11月）

小単元	秋たんけんをしよう(4)	秋のおくり物をいただこう(6)	秋フェスタをひらこう(5)
主な活動	1 校庭の秋をさがそう(1) 2 春や夏に出掛けた公園や森を探検しよう(2) 3 見つけた秋を発表しよう(1)	1 秋のおくり物で何をしよう(1) 2 作りたいものや遊びたい物を作ろう(3) 3 遊ぼうふやそう秋のおくり物(2)	1 秋フェスタの計画を立てよう(1) 2 ようこそ秋のフェスタへ(3) 3 ありがとう秋!(1)
秋の自然や物を使った主な遊びと表現活動	<b>対象そのものと触れ合う。</b> ・落ち葉をかけあう，もぐる。 ・イチヨウのじゅうたんを歩く。 ・ドングリなど木の実を拾う。 ・草原に寝転び雲の流れを楽しむ。 ・空の高さや秋の風を感じる。 ・黄や赤の葉を見付ける。 ・匂いをかぐ。 キンモクセイ，ヘクソカズラ <b>対象物を活用する。</b> ・草笛や木笛で音を鳴らす。 マサキ，ツバキ，ドングリ，スズメノテッポウ，キブシ，カラスノエンドウなど ・くつつく草の実で遊ぶ。 オナモミ，ダイコンソウ，イノコズチ，ヌスビトハギなど ・草や花で飾る。 サザンカ，ヤツデ，ススキ ・木の実や果物を食べる。 アケビ，ヤモノイモ，アキグミ ・土手をすべる。 ・虫をさがす，捕まえる。 など	<b>自然や物を使って作り，飾る。</b> ・木の葉・木の実で形を作る。 ・動物や人形を作る。 柿の葉やイチヨウやツワブキススキのふくろう，アケビやクスズツのつる ・木の葉しおり，木の実リースを作る。(プレゼント) ・服や帽子やネックレスを作る。 彼岸花や椿のネックレス，ビニルや紙袋の服など <b>自然や物を使って作り，発表する。</b> ・発見したことや季節の変化や驚いたことを絵や文に書く。(詩，紙芝居，ペープサート) ・楽器を作る。(音楽会) どんぐり笛，マラカス，草笛，小枝ギロ，でんでん太鼓 <b>自然や物を使って作り遊ぶ。</b> ・作ったおもちゃで遊ぶ。 どんぐりやじろべえ，松ぼっくりのけん玉，オナモミダーツ，びっくり箱，ストラックアウト，フジづるの飛縄	<b>作った物を飾る。</b> ・木の葉アート ・秋の展覧会 ・もうすぐクリスマス！リース展示会 ・秋のファッションショー <b>作った物を発表する。</b> ・「秋の発見」朗読会・読み聞かせ会 ・秋の昼コンサート <b>作った物で遊ぶ。</b> ・おもちゃランド ・遊び講習会
留意事項	長袖・長ズボン，活動しやすい服，草の実がくつつきやすい服や帽子を着用させる。 危険な場所や植物等についての安全チェックをしておく。 集めた木の葉は紙に挟んで一週間ほど重しを置く。 教室の環境を整える。(本，写真，おもちゃなど)	事前に作る材料や道具を準備しておく。 適切な使い方等はその都度指導する 表現活動は国語や音楽，図画工作との内容の関連を図る。 子どもの自由な発想を生かし，作りながら遊び，遊びながら作り変えていく過程を設定する。	発表や遊びは，学級内だけでなく，招待状を出して1年生(幼児)や保護者，地域の人の前で発表し，一緒に遊ぶ。 外で活発に遊べるものは，体育の学習との関連を図る。 発表会は国語や音楽の学習との関連を図り，表現技能や方法についても学び取らせる。

## 5 表現活動への意欲を高める自然や物を使った遊びの学習活動例

単元「秋を楽しむ」の小単元「秋のおく

本時の実際(1/6)(2学年10~11月)

り物をいただく」から、子どもが見付けた秋の自然や物を使って、自分なりの発想や方法で表現したいという思いを高めさせる学習について具体例を示す。

過程	主な学習活動	子どもの反応	嚆	教師の働き掛け	評価の視点
思いや願いをもつ	1. 見付けた秋で作りたい物を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>こんなものを作りたいな</li> <li>木の葉を貼って動物等の絵</li> <li>どんぐりで笛やこま、やじるべ</li> <li>草笛やマラカス、音の鳴る楽器</li> <li>木の葉や木の実をつけた服</li> <li>オナミダーツなどのゲーム など</li> </ul> 2. 活動のめあてを確認する。 秋のおくりものですてきなものを作ろう。		5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や学校周辺の今まで探検した時の写真を掲示したり、おもちゃ作りに関する本を置いたりしておく。(生活科マップ、「どんぐりノート」「植物あそび」「おもちゃ作り」の本など)</li> <li>事前に空き箱や牛乳パックなどの材料を持ち寄らせて集めておく。</li> <li>秋探検で見付けた物やまとめたカードを基に作りたい物のイメージをふくらませる。(展示・掲示)</li> <li>図画工作や音楽、国語の学習との関連を図り、総合的学習を進めることを伝え、作りたいという思いを膨らませる。</li> </ul>	
思いや願いを広げる	3. 自分の作りたい物を考えたり作り方を調べたりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>どんぐりこまや松ぼっくりけん玉オナミダーツなどのおもちゃで遊びたい。</li> <li>マラカスやでんでん太鼓やギロで音楽会を開いたり、秋の歌も歌ったりしたい。</li> <li>葉や木の実の絵、リースを作りたい。</li> <li>木の葉や木の実で服や帽子、ネックレスを作って着てみたい。</li> <li>見付けた秋を文や絵にかいて紙芝居や巻絵本をつくり、それを誰かに聞かせたい。</li> </ul>		25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>木の実や木の葉を触って作りたい物や作り方を考えさせたり調べさせたりする。なかなか考えつかない子どもにはヒントカードや参考図書を渡し言葉掛けをする。</li> <li>「秋をいただくカード」に作る物、作り方、必要な材料や道具、どのように発表するかなどを書かせる。</li> <li>作品の発表の仕方について相手意識や表現方法、表現の場などを考えさせ、意欲を高めさせる。</li> <li>子どものつぶやきや面白い発想、工夫しているところなどを称賛し、他の子どもに広げていく。</li> <li>子どものつぶやきや行動などから、作りたいという意欲をもって取り組んでいるか見取る。</li> </ul>	
思いや願いを深める	4. 秋のおくり物を使って作る物や使い方を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃランドを作ろう。</li> <li>秋のファッションショーを開きたい。</li> <li>秋のコンサートを開こう。</li> <li>秋の展覧会を開きたい。</li> <li>詩や絵本、紙芝居で秋の発表会をしたい。</li> <li>作った物でみんなで遊びたい。</li> <li>幼稚園児や1年生も招待したい。</li> </ul>		10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>作りたいわけや遊び方など伝えたいことを自分なりの言葉で発表させる。</li> <li>自分の作り方と友達の発表とを比べさせ、よいところや面白いところを見付けさせる。</li> <li>作る物、作りたいわけや作り方、発表の仕方などについて「秋をいただくカード」をもとに発表させる。</li> <li>一つの作品をグループで作ることも考慮させる。</li> <li>遊び方や発表会についての発表から秋フェスタへの活動へつなげることを知らせ、製作意欲を高めさせる。</li> <li>発表やカードから自分の作りたい物が決まり、作ろうとする気持ちが高まったか見取る。</li> </ul>	
活動を振り返る	5. 学習カードにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>どんぐりや木の葉をもう少し集めておごうかな。</li> <li>T君の作り方なら作れそうだ。</li> <li>図書館の本でもう一度調べてみよう。</li> </ul> 6. 次の活動について話し合う。 秋のおくり物を使って作ろう。		5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードの振り返りでは、作りたい物を作るための準備も記録させ、作ることができるか、足りない物は何かも考えさせ、次の活動につなげる。</li> <li>学習カードや発表から作る物に必要な物が分かり、準備する物が分かっているか見取り、評価補助簿に記録する。</li> <li>自分が作る物に必要な材料や道具をそろえて作りたいという意欲をもたせる。</li> </ul>	

生活科では、直接体験を重視した学習活動を展開することで、一人一人の子どもが自分のよさを発揮しながら、事象や人とかがわって思いや願いを実現していく。そして、子どもは、具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会及び自然に働き掛け、その対象とのやりとりの中で感じ、考え、気付くなどして相互交渉する能力を身に付けていく。

また、子どもの思いや願いを十分に表現さ

せることで、子どもは自分に自信をもってよりよい生活ができるようになる。このように、生活科の学習指導においては、更に表現を工夫した具体的な活動や体験の展開が望まれる。

### 【参考文献】

文部省『小学校学習指導 要領解説 生活編』平成11年5月

ながたはるみ作「植物あそび」1998年 福音館書店

(教職研修課)